

平成26年第4回定例会

農業問題・教育問題・都市計画について

2014/12/04

古河市議会議員

園部 増治

《平成26年・第4回定例会一般質問》

13番議員の園部増治です。議長のお許しを頂きましたので、質問通告に従い「農業問題について」「教育問題について」「都市計画について」の3件につき、質問をさせていただきます。

質問に入る前に去る9月27日、御岳山で起きた噴火災害は、戦後最悪の噴火災害となり、大勢の犠牲者がでました。心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。また、先日長野県の白馬村を震源とするM6.7の地震が発生いたしましたが、多くの住宅や建物が倒壊して、タンスの下敷きになった人もいましたが、住民が協力して救出に当たり1人の死者も出さずに済んだのは、不幸中の幸いであり、これからの安全安心な街づくりを考えていく上での教訓として、生かしていくべきであると思います。

それでは質問に入らせていただきますが、まず第1点目は、「農業問題について」お伺いいたします。

古河市は猿島台地の西端に位置し、古くから畑作が行われており、昭和30年代以降は、国道4号線の開通など交通の便に恵まれたため、露地野菜の栽培が盛んにおこなわれるようになりました。キャベツ、白菜、大根などのほか果菜類のなす、南瓜、きゅうり、トマトなどの栽培も行われるようになりました。現在では、施設栽培、花卉栽培や酪農、茶業なども行われており、農業は古河市における基幹産業の一つとなっております。

また、水田は、大正末期から昭和初期にかけて池沼・原野を干拓して作られた土地改良事業により、水稻が作付されるようになり農業生産の拡大が図られました。

かつての「総和音頭」には、

「稔り大山、穂は長井戸よ、さすが釈迦沼、米どころ

米のうまさに彩り添えて、作る野菜も味自慢、

総和人の和、踊りの輪、さあさ広がれ丸くなれ」

と唄われたところであります。

ところが、今年の秋は、農家にとって思いもよらぬ厳しい年となりました。コメの価格が大暴落、1俵の価格が昨年よりも3,000円も下回る価格となってしまいました。それに追い打ちをかけるように野菜の価格が低迷しており、とうてい再生産ができるような価格ではなく、市内の農家は、大きな打撃を受けております。そのような中で、市の基幹産業の一つでもある農業を守りさらに振興させていくために考えられる支援策についてお伺いいたします。

次に耕作放棄地対策についてお伺いいたします。このような状況の中で、現在農業に従事している方の多くは、60代、70代といった高齢者の方です。特に昨年度あたりからリタイヤする人の数が急激に増加しているように感じられます。今まではリタイヤしても何とか耕作してもらえる人が見つかっていましたが、ここにきて耕作者が見つからなくなっているというのが現状であります。米の値段が高ければ何とか耕作してくれる人も見つかると思いますが、作れば作るほど赤字になってしまうというのでは、耕作してくれる人が見つからないのが当然であります。

国でもこのままでは大変なことになってしまうという考えのもとで、耕作放棄地解消に向けての対策を打ち出してきておりますが、どんな制度、仕組みになっているのか。農業者に対して周知徹底がされていないのが現状ではなかろうかと思えます。国の制度についてどのようなになっているのか。また、農家の方への周知について、さらに、市としてできることはどのようなことが考えられるかについてお伺いいたします。

3点目は、担い手の育成についてであります。農業を取り巻く環境が非常に厳しい中であって、市の基幹産業の一つである農業に取り組む若者もおり、力強く感じているところでもあります。市としてもこのような若者たちに対して、できるかぎり手を差し伸べていただきたいと考えておりますが、担い手の育成についての考えをお伺いいたします。

次に「教育問題について」お伺いいたします。執行部の皆様におかれましては、10月から11月にかけて、20地区のタウンミーティングを行っていただきまして、ありがとうございました。各地区それぞれに、その地区に関わる課題が出ていることと思われますので、市民の生の声でありますので、今後の行政執行に生かしていただきますよう、また、誠意をもって取り組んでいただきますようお願いをいたします。

私も第11地区のタウンミーティングに出席させていただきました。その中で菅谷市長が、まちづくりに対する考えを述べられました。若者に選ばれるまちづくりは、教育と子育て支援であるという観点から、特に教育についての考え方を述べられました。私のメモによりますが、小中学校の全教室にクーラーを設置することになったが、体育館にも全部設置する。これは、教育環境が悪いといい先生が来ないためです。古河市と五霞町は、茨城県の中では特別地域でいい先生が少なすぎます。高校野球でもそうですがいい指導者がいないと生徒は伸びません。古河市では、T. Tを初めて行ってきましたが、私からあえて申し上げますが、古河市の学力のレベルはとても低いです。全国学力テスト

で古河市の小学校は、37位で、中学校は47位であります。最低レベルであります。という衝撃的な報告を受けました。私はその時、古河市内の先生方がこのようなことを聞くとやる気をなくしてしまうのではなかろうかと感じました。

古河市の学力のレベルは、本当にこのように低いのか。低いとすればどこに問題があるのか。いい先生がいないのか。クーラーを入れれば本当にいい先生に来てもらえるのか。学力の向上につながるのかも含めて原因を探り、対応策を早急に考えていく必要があるものと考えますが、教育長のご所見をお伺いいたします。

次に「都市計画について」お伺いいたします。10月15日~17日に総務常任委員会の行政視察がありました。研修内容は、滋賀県草津市における「草津未来研究所について」と兵庫県芦屋市における「阪神大震災後の防災体制について」でありました。草津未来研究所は、立命館大学との官学連携により未来を見据えた提案をしてもらうことを目的に創設された組織であります。研修の中で、20年前に立命館大学を誘致した時と時を同じくして、新駅「南草津駅」が開業したこと。新駅の設置がうまくいった事例であり、その後20年間で人口が2万人増加したこと。大学誘致や新駅の設置に関しては、市で40億円、県で120億円の予算措置をしたことなどの話がありました。

そして、2013年の近畿ブロックすみよさランキングで兵庫県の芦屋市を抜いて第1位になったという話もありました。さらに、2014年には近畿以西の西日本エリアで第1位となっております。

JRでも「南草津駅」は、成功事例としてとらえているとのことですが、このようなまちづくりこそ「若者に選ばれるまちづくり」につながるのではなかろうかと思えます。

これまで私は、一般質問におきまして、歴代の副市長からお考えを伺っているところであります。市長の考えにつきましては、前回の一般質問でお伺いいたしましたので、今回は、県からお出でいただいております山口副市長の考えをお伺いいたします。県の上位計画や、日野自動車の工場移転の前倒し等も鑑み、大所高所からのお考えをお伺いいたしまして、1回目の質問といたします。

【2回目】

それでは自席から2回目の質問をいたします。まず農業問題についてご答弁をいただきましたが、現在の農業を取り巻く環境は、非常に厳しいものがあります。農業を守ることは、地域の環境を守ることにもなりますし、ひいては、国土の保全にもつながります。行政が中心となって農業委員会や農協、共済組合、土地改良区、女性団体、4Hクラブなど市内の農業関係の組織に働きかけて、英知を出し合っていくことが必要ではなかろうかと考えます。

農業をしている方に話を聞いてみますと、今使っている農機具が壊れたら、もう米づくりはやめにしようと思っている、と言う人もいます。そのような中で、どんな支援策が欲しいかを尋ねてみると「農機具を購入する場合の補助金があると良い。」という人が大勢おりますので、市独自の農機具の購入に対する支援策等についてもご検討をいただければと考えております。

また、耕作放棄地対策についてであります。国・県の制度を活用できるように農家の方への周知を図っていただくためには、実態把握をした耕作放棄地の所有者に対して、また、担い手に対して、市から直接、「このような制度があるので是非利用していただきたい」旨の連絡をしていただくのも一つの方法であると思いますので、早急に取り組んでいただきたいと思います。

また、環境基本計画によりますと「重点プロジェクト」が示されておりますが、その中での取組みとして「グリーンツーリズムを通じた耕作放棄地の活用促進」があげられておりますので、ぜひこのような取組みもしていただきたいと思っております。その他、市として考えられる対策について十分にご検討をお願いします。

また、担い手の育成についてであります。農業後継者の育成についてはもとより、定年を迎えてから農業をしている方もおりますので、こういった方への支援もお願いをしたいと考えております。これからも、私も農業に取り組んでいる一人でございますので、ともに考えながら取り組んでいきたいと思いません。よろしくお願いをいたします。

次に教育問題についてであります。

佐川教育長におかれましては、市内には32校の小中学校がありますので、教育行政のトップとして大変なご苦勞をされていることと思いません。

これからも古河市で生まれ育ち、そして古河市で教育を受けた子供たちが郷土を愛し、郷土に誇りを感じられるような教育を行っていただきますように期待をいたしております。よろしくお願いをいたします。私は、クーラーがダメと言っているのではありません。クーラーだけでなく、その他に学力を向上させるために考えられる方策はあるか、教育長のご所見をお伺いいたします。

3件目は、都市計画についてであります。

山口副市長には、大所高所からのご答弁をいただきましてありがとうございます。県庁2階のロビーに茨城県の将来計画が載っている大きな地図があります。その中の古河市のところには「新駅予定地」が入っております。県としても将来計画の中に位置づけていただいているわけでありますので、県と手を組んで推進をしていければ、滋賀県の草津市のようなものと同様に確信をしております。

「木を見て森を見ず」という言葉があります。目先のことばかり考えていると物事の本質を見失ってしまうということでもあります。商売をしている人が「どうしたら儲かるかということばかり考えていたら、なかなかうまくいかなかったが、どうしたらお客さんに喜んでもらえるかを考えるようになったら、商売が順調に伸び、働くのが楽しくなった」という話を聞いたことがあります。

市役所も同じであると思います。「どうしたら市民の皆さんに喜んでいただけるか」ということを考えて、将来を見据えた行政執行をしていけば、必ず良いまちになるものと思います。

手元に地域ブロック別「住みよさランキング」関東地区トップ20の資料がありますが、トップ20の中に茨城県から7つの市が入っております。2位守谷市、3位つくば市、5位那珂市、7位神栖市、8位水戸市、15位土浦市、16位鹿嶋市となっており、古河市は残念ながら入っておりません。ぜひ古河市も住みよさランキングで上位に入れるようなまちづくりをお願いしたいと思います。

【3回目】

都市計画：まちづくり事業を行うというときには、反対はつきものであります。地域で考えてもらうことが重要であり、そのおぜん立てをするのが行政の役割であると思います。場合によっては専門家を派遣する。そして、後ろで静かに見守る。それが行政の仕事ではないでしょうか。

反対がいるということではありますが、現場に足を運んでいないのではないのでしょうか。当時は反対した人も今では、本当に困ってしまっています。区画整理事業は、反対がいるからできないというものではありません。組合施工の場合と市施工の場合とはどのように違うかを伺います。

【執行部答弁】

組合施工では同意率が求められますが、公共施工（市施工）の場合は、市で進めることになっていきます。（新駅周辺の区画整理事業は市施工として平成8年に、都市計画決定を受けていただいております。）